

社説

教育の方針

教育の大なるは、今更らば、待たざる所にし。小學校より大學に至るまで各種の教育は、夫れ社會の繁榮を助くるものなれども、其内に個人の利益を目的とするものもあれば、國家の組織上に必要なるものもあり、自から一様ならず、即ち小學校教育は、何人にも必要なる讀書習字算術の初歩を教ふるものにして、一人前の國民として其義務を盡すには、是非とも是れだけの智識なる可らず、例へば兵役は國民の免る可らざる義務なれども、無智文盲の輩は、自から兵役に熟し難く、萬事に付て合點難しきが故に、容易に善長兵と爲るも、能はず、日本が全國皆兵の主義を實行して、軍事上大に利益したるは、主として軍隊中に教育ある者を擧げたるに由ると云ふ果して然らば、教育の普及する否とは、直に國の強弱に關するものと云ふも可なり、軍に兵役に於て然るのみならず、市町村若しくは國家の一員として各種の職務を運集し、或は其權利義務に關する法律規則を心得るが爲めにも、普通教育を要するは、論を待たざる所にし、米國の諸州中には、教育の有無を以て選舉資格を定むるもの少なからずと云ふ左れば、普通教育は國家組織の土臺にして、其普及と進歩と計るは、寧ろ公共の義務なれば、獨逸政府の如き、嚴しく之に干渉して、學齡の兒童は否や、應なしに都て就學せしめ、又米國に於ては一切無月齡にして、何人にも自由に入學せしむるの例なり、小學教育の性質は、凡そ斯の如きものとて、次に高等教育は如何と云ふに、何れも社會の繁榮に必要なれども、本來の主義に於て國家の事業に屬す可きものに非ず、文學藝術ならざれば、國民の品性を高むるも、能はず、工業理財進歩せざれば、商賈工業の發達を望む可らずと雖も、然れども、世人が是等の學問を修むるは、直に國家の利益を目的とするに非ず、して寧ろ自家の生活を實げんが爲めなり、例へば法律學を學ぶ者は、代官人となりて、辯護料を收め、工學を修むる者は、鐵道又は他の土木に従事して相當の報酬を得んが爲めのみならず、大工左官の徒弟が家を建て、壁を塗るの法を學んで、生計を立てるに異ならず、果して然らば、之を修むる否とは、人民の勝手にして、政府の關係す可き所に非ず、國家の公費を以て私の營業を助くるが如きは、本來あるまじきと云ふべし、之を譬へば、小學教育は、恰も道路の如くにして、其以上の教育は、私有的の庭園に異ならず、道路は、徒歩する者にも車に乗る者にも等しく、必要にして、公共の用を爲すものなれば、公共の費用を以て作らざる可らざれば、も、庭園は、私用に供するものなり、之を備ふるも、皆どは、全く銘々の意に任す可きのみ、是に於て、米國の如き小學校を開放して、何人にも自由に入學せしむると、

猶は勝手に道路を踏まじむるに異ならず、されども大學に至ては、全く人民の私に任じて之が爲めに一錢の租税をも費すとなし、誠に教育の本義に違ふものと云ふ可し、然かのみならず、小學校教育は、一般普通の教育なるが故に、全國を通じて大抵同様の規則を以て支配せざる可らず、同一の規則を以て支配するには、政府も、其も適任なれども、高等の教育は、自から別にして、一律に律す可らず、獨逸流のものあれば、英吉利流のものもあり、又獨逸主義もあれば、耶蘇教主義もあり、又自由主義もあれば、學問界の繁昌を見る可きものにして、譬へば、松もあれば、杉もあり、梅もあれば、櫻もあり、て、風景の美を爲すが如し、總ての教育を同一模様に押込んとするは、大なる心得違と云ふ可し、此點より見るも、小學校教育は、公共の仕事に於て、高等の教育は、政府の專賣に任す可らざるものと明白なるに、然るに我國の教育方針を見れば、恰も此反對に出るの觀なきに、非ず、小學校は、概ね市町村立なれども、其收入の重なるものは、生徒より徴收する授業料にして、公共の負擔は、甚だ重からず、特に東京市の如きが、爲めに費す所始、んぞ、皆無と云ふも、可なり、當局者が、少しく、授業料を制限せんとすれば、即ち、難として、苦情を唱へ、強ひて其間門を嚴にして、教育の普及を妨げんとするが如き如何にも、解し難き次第にして、文部省が、其苦情に、閉口して、一旦、發布したる勅令を、引込ましたるも、亦、不思議と云はざる可らず、小學校に對する、筆法は、斯の如くにして、初等學校は如何と云ふに、大抵、公共の費用を以て設立したるものにして、當局者の眼中には、只、官公立學校あるのみ、私立學校とて、悉く、不完全のものに非ず、中には、見る可きものも、あれども、政府の之を、過する、其、冷にして、殆んど、度外視するの例なり、中等程度の認定を、求むるものあれば、學問の點に於ては、申分なきに、拘はらず、只、その、流儀が、氣に、食はぬとて、之を、拒絶し、官吏に、購せしめ、教員を、任するにも、官立の卒業生に、非ざれば、都て、試験を、要するが如き、何れも、官立の實を示すものにして、恰も、學校は、官公立に、非ざれば、學校に、非ず、私立學校にて、修めたる學問は、同じ、學問にて、自から、す、と云ふに、異なる、事、誠、に、奇と、云ふ、可し、我輩は、固より、總ての、官立學校を、廢す、可し、と、主張する者にも、非ず、高等なる學問は、費用を、要するも、多し、單に、學生の、授業料、又は、篤志者の、寄附のみを、以て、學校を、維持せんとするは、容易に、非ず、富有なるも、米人の、如く、教育を、重するも、亦、米人の、如く、にして、始めて、米國の、例に、倣ふ、可し、官公立も、未だ、價に、廉す、可らざるのみ、か、或は、一層、擴張の、必要も、ある可し、と雖も、本來の、性質に、於て、中等以上の、學問は、人民の、私に、任す、可きものなれば、學校は、官立に、限ると、云ふ、が如き、思想を、以て、事、處す、可らず、官立を、世話する、と共に、民立を、無視せざるは、勿論、寧ろ、之を、本位として、其、發達を、促さるる可らず、政府は、政府の、學校を、さへ、繁昌せしむれば、則ち、可なり、と云ふ、が如きは、誠に、俗吏の、見のみ、官民共に、活眼を開いて、教育の、大方針を、誤るなからん、と、我輩の、呉々も、希望する、所なり

西班牙の強硬

紐育、ヘラルドに、記載する、去月二十日、發の、マドリッド、電報に、曰く、軍檢會議の、報告に、依り、メーノ、艦の、探察を、外國に、歸し、米國、損害賠償を、請求する、と、西班牙政府の、之に、照せざる、可き、み、を、明にして、斯の、如き、請求を、請せん、か、其、屈辱は、永久、ふれ、を、響ぐ、に、由なく、文明國の、不名譽、の、上、なかる、可し、と、は、閣議に、於て、決したる、所にて、米國政府も、此、覺悟は、承知する、もの、如し、而して、いよいよ、賠償の、請求に、接せん、か、西班牙政府は、歐洲列國へ、公平の、判斷を、求め、其、適合力、を、假り、新に、中立の、海軍、技術會議を、開き、事、是非を、裁決せしむる、意見に、して、米國の、海軍、將校は、其の、豫期する、所、に、逆ひ、反對の、報告を、爲して、其、非難を、被る、を、恐る、が、上に、既に、西班牙、へ、對する、敵愾心、先入主、となり、居れば、到底、至公平の、判斷を、望む、可からず、と、米國、軍檢會議に、信を、置かざる、よし、又、キューバの、賣却に、就ては、朝野共に、異議甚だ、盛にして、絶て、之に、應ずる、の色なし、但し、此、間、獨り、行はる、可き、策は、先づ、該、島に、自治制を、施行し、見ても、成功せざる、時に、至り、始め、米國より、の、提議に、して、西、獨必、す、之を、拒絶す、可く、中立の、第三國の、案を、提議せば、或は、承諾する、所、となり、と、云々

キューバに對する米國の態度

米國、巡洋艦、メーン、爆發、審檢會議、の、結果、遺棄の、原因を、以て、外部に、歸し、數、水雷に、觸れたる、に、由る、ものと、認定したる、趣は、去月二十八日、發の、倫敦、特電に、見、えたる、が、如く、にして、最近、著の、米國新聞に、據れば、大、統領、マッキンレー、氏は、右の、報告を、先づ、閣議に、附して、審議したる、後、上下兩院の、委員會へ、應、答し、數日を経て、キューバ問題に、關する、報告を、閣會へ、與へ、該、閣會の、議を、終了し、自主自由の、權を、附與する、方法を、發表する、豫定なり、と、云ふ、(但し、教育を、與ふるの、日を、再び、延期し、今に、發表されざる、は、去る、六月七日の、倫敦、特電に、見、えたり、) 而して、對、キューバ、策に、就ては、審檢會議として、上院の、合衆黨、議員中、には、兵力に、訴へて、該、島へ、干渉する、に、異議を、唱へ、西班牙、へ、對し、攻勢を、執る、を、不可なり、と、して、唯、キューバの、獨立を、承認する、のみ、に、止む、可し、是れを、最も、安全なる、策にして、獨立を、承認すれば、とて、必ずしも、閣議を、開く、は、我ら、ざる可し、と、主張する、もの、少なからず、して、漸く、大統領を、動かさん、とする、の、勢あり、しか、他、の、一派の、議員、及び、閣議の、外、兼て、此問題に、注意し、居る有力者、は、今日、該、島に、於て、事實、政府を、認む、可きもの、存在せざる、に、獨立を、承認する、と、決して、正當の、處置に、非ざる、のみ、か、事局を、して、ます

犯罪の美術

斯くて、突村は、言葉、を、繼ぎ、それで、坊主は、恐ろしく、ながら、三尖塔の中へ、透入して、寶石を、盜り、出した、探て、クレオパトラに、之を、獻じると、喜ばれる、と思ひ、外、是は、如何に、クレオパトラは、柳眉を、倒だ、似つかぬ、の、牛着、が、何とて、我が、珠の、對な、る、べし、と、以つて、外の、憤り、坊主は、長、來た、に、その、内の、那の、珠、

いと云ふものと、
ラは、繼ぎ、それ
の、脚は、生命を
な、今も、生命
ならん、まで、ふ
やれど、還らぬ
珠は、同じ、深紅の
馬鹿々々し。
戸田は、「ナニ、
には、何ん、な、
る、もので、ない、か、
は、敢て、是、
レオパトラは、
の、一人、が、
居つた、處、が、
馬で、奴、を、
つて、居る、事、
た、が、後の、
の、女を、殺して、
玉」と、云、
それ、から、色々、
して、行、は、
ない、その、詳、
て、僕、は、それ、
た、人の、名、を、
何、にして、も、
の、は、必ず、
買、の、出、來、た、例、
した、のだ、何、人、
出、來、た、と、云、
に、金、で、以、つ、
初、めて、それ、
の、珠は、左、様、
ある、から、持、つ、
ど、した、に、相、違、
事、が、ない、直、
塗、り、込、ま、れた、車、
隠、して、置、か、
思、ひ、も、寄、ら、ん、
し、出、さ、れて、
斯、くと、聞、く、戸、
の、面、白、い、話、だ、
ら、何、う、か、明、ら、
その、珠に、直、ぐ、
でも、ある、と、云、
「その、珠、と、云、
又、た、珠の、功、徳、
實際、近日の、出、
「フン、それは、何、